

# まちづくりあいかわ

「歴史的資源を活用した地域活性化の活動報告」

— 65号 —

発行所 佐渡市相川市民センター  
〒952-1592  
佐渡市相川栄町 27 番地  
TEL 0259 (74) 3111 (代)  
FAX 0259 (74) 2551

## 金継の活動報告

### 毎週日曜日に「相川・夕日カウンター」を設置します

相川の美しい夕日を、観光客の皆さんにも地域の皆さんにも、もつと気軽に楽しんでいただきたいと思います。そんな思いから、新たな取り組みとして「相川・夕日カウンター」をスタートします。相川の海岸には、日本海に沈む美しい夕日があります。夕日を眺めながら一息ついたり、人との会話を楽しんだり、それぞれの時間をゆっくり過ごせる場所として、多くの方に立ち寄っていただけたら嬉しいのです。

相川の新たな夕日スポットとして親しまれ、夕暮れとともに過ぎた時間が、相川での思い出の一つとなり、「また夕日を見に来たい」と思っていたただける場所へ育っていくことを願っています。毎週日曜日、夕日を眺めながら人が集い、語り合える風景を、相川の日常として少しずつ育てていきたいと思っています。

- ▼設置期間 8月末まで
- ▼設置日 毎週日曜日
- ▼設置時間 午後5時30分頃
- ▼設置場所 相川公園（きらりむ駐車場近く）

※雨天時や地域イベント等により設置できない場合があります。その際はSNS等でお知らせします。（金継 岡部）



相川湾の夕日を余すところなく楽しめる「相川・夕日カウンター」

## 相川車座の報告

### 「立浪会ミニ公演 in 清水家」 継続開催＆新企画

5月より開催しています、相川車座下町交流ロビーでの立浪会による「佐渡おけさ」「相川音頭」のミニ公演は、ご好評につき7月、8月も継続して開催します。

#### ▼「立浪会ミニ公演 in 清水家」開催日

7月17日(金)、24日(金)、26日(日)、31日(金)  
8月1日(土)、7日(金)、14日(金)、15日(土)  
午後6時15分開場 6時35分開演  
実施協力金 1000円(島民は500円)1ドリンク付  
☎ 050-1720-9976 (6を押してください。)



NIPPONIA\_SADO

### 相川音頭体験会に参加して、御前踊りに参加しよう！

7月18日(土)には新たな取り組みとして、「相川音頭」の体験会を開催します。6月の「宵乃舞」で実施された輪踊りが大変好評だったことを受け、企画しました。体験会の後は御前踊りにみんなで参加して楽しみたいよう！

今回の体験会はモニター開催となりますので500円(1ドリンク付き)でご参加いただけます。地域の皆さまと観光で訪れた方々が交流しながら、相川の伝統文化を楽しめるひと時を目指しています。ぜひお気軽にご参加ください。

い。なお、今後のイベント情報はインスタグラムにてお知らせいたします。皆さまのご参加をお待ちしております。

#### ▼相川音頭体験会の日程

開催日 7月18日(土)  
開催時間 午後8時開始  
開催場所 京町茶屋相川八重亭



宵乃舞後の輪踊りの様子

(相川車座 雨宮)

## 相川中学校1年生が

### 北沢でボランティアガイドに挑戦します！

相川中学校1年生が、地域学習で学んだ成果を生かし、北沢浮遊選鉱場で観光ガイドとして皆さまをご案内します。

#### ▼目的

- (1) 相川の歴史や文化を理解する。
- (2) 活動を通して、相川や佐渡を愛する精神を養うとともに、将来に生かそうとする態度を育てる。
- (3) 活動に意欲的に取り組み、他とのコミュニケーション力などを身に付ける。

相川の歴史や文化・まちの魅力を、中学生ならではの視点と笑顔でご紹介します。

▼期 日 令和8年7月25日(土)、26日(日)

▼時間 午前10時～12時

▼受付場所 北沢浮遊選鉱場(相川北沢町3-2)

ガイドはどなたでも受けることができます。  
皆さまのお越しを心よりお待ちしております！



## あいかわ道草話 「相川萬歳」を揮毫した人

明治維新以降、佐渡鉱山は工部省、農商務省、大蔵省を経て、明治22年(1889)4月に宮内省御料局に移管されました。同24年(1891)6月1日、農商務大臣の岩村通俊(みちとし)(1840～1915)が御料局長に就任。岩村は、土佐藩出身。幼いころから俊才と知られ「人切り以蔵」と岡田以蔵に剣術を学び、戊辰戦争では新政府軍の軍監として越後・出羽を転戦。維新後は、佐賀県権令、鹿児島県令、初代北海道長官を経て農商務大臣を歴任しています。

岩村局長は、7月30日・31日 就任早々、佐渡鉱山の視察に入ります。鉱山では、鉱山祭りの日を局長来島の日に変更して迎えました。岩村局長は雨降りの中、北沢新工場群を見学。正面には「御料局万歳」の大アーチが設えられ、黄金の玉をわしづかみにしている作り物など、様々な飾り物。その中を、岩村局長は山之神大山祇神社を出発し大間港に向かう鉱山従業員総勢2,700人のパレードの先頭に立ちました。その後、岩村局長は市中に設えられた座敷席で、水金町の芸者の乗った大黒の山車や、鉱山の従業員らが繰り出す「やわらぎ」などを見学しました。その後、五郎左衛門町の旧中教院(相川幼稚園跡)で行われた懇親会に出席。この時、岩村局長に揮毫を依頼した者がいたのでしょう。たつぷり墨を含ませ「相川萬歳 通俊謹書」と一気に筆を運びました。あいにく落款の持ち合わせがなく、この書が押印のないまま伝わることになったのでしょうか。

明治29年(1896)4月、宮内省は佐渡・生野(兵庫)鉱山等の民間払い下げを決定。翌月、岩村局長は払い下げ理由を発表。森知幾相川町長らは伊藤博文・板垣退助等に面会・陳情するなど反対運動を展開しましたが、同月15日に三菱合資会社に払い下げが決定。これにともない相川町に6万9千円、下相川村に1千円の御下賜金が交付されました。6万9千円の御下賜金を受けた生野では、各世帯や町内会に分配しましたが、森町長は分配論には組せず、翌年7月13日に町の将来の社会資本整備のため「恩賜基本財産規則」を制定。この日を「恩賜金記念式典」として伝え、今日、「相川萬歳」の揮毫が町の歴史を見守り続けています。

(参考)『佐渡相川の歴史 通史編』  
(相川市民センター地域支援係 濱野)



岩村通俊の揮毫